

北はりまの山の魅力

地元で愛されてきた山々

はりまの山々に登って気が付いたこと、それは地元の人たちの暮らしに寄り添ってきた山が多いということです。登っていくとかつての炭焼き小屋の跡があったり、食材の採取場所があったりします。戦国武将の居城があった山もいくつかありますし、近年まで修験者が登っていた山もあります。人々の営みと共に時を経てきた山やその周辺には、史実だけでなく昔話や言い伝えも残っているだろうし、その地域独特の食べ物もあるでしょう。はりまの山には山だけじゃなくそうした歴史や文化、そこに暮らす人々に触れる楽しみもあります。

はりまの山を制すればどんな山も怖くない？！

はりまの山は高山ではありませんが、う回路が少なく、等高線に対してまっすぐ道が付られていて急なアップダウンも多い、そのため頂上までの道のりは思った以上にハードです。それに、登山口を見つけにくかったり、登山道が不明りょうだったりして、ルートファインディングも難しい山が多いのです。京阪神からも近いので気軽に山登りのトレーニングができる山として近年じわじわと登山客が訪れているようです。

山に入るときに心構えとして

たとえ半日で登れるような山であっても、地図とコンパスを使って、その日のルートを事前に掴んでから登るようにしてほしいです。初めての山は行ってみなければわからない事のほうが多いけれど、行き当たりばったりだと、その日がただ登って降りるだけで終わってしまいます。また、わすれものチェックはなるべく早く行ってください。持っていないことに気付かずにいるより、忘れたことを把握しながら登る方がいざと言う時に早く対応できます。

登山届けも忘れないこと。登山口に設置されている山もあります。所轄の警察署でもいいですし、本誌でも紹介しているサイト「山と自然ネットワークコンパス」で登録することもできます。(http://www.mt-compass.com/)

登山届けを出して、何時までに頂上について何時までに帰ってくるかを計画するだけで気持ちに余裕が生まれますし、風景や草花の美しさに気づく心のゆとりも生まれます。さあ準備ができれば、北はりまへレッツトレック！



加藤 智二さん

1960年生まれ

東京都出身、神戸市在住

好日山荘登山学校校長、日本プロガイド協会、日本山岳レスキュー協会 所属 国立登山研修所 講師。海外登山や冬山登山、岩登りも行いますが、植物・地質など自然全般が大好きで、写真撮影も得意としています。広範囲な登山を目指すことをモットーとし、豊富な知識と経験で安全で楽しい登山ツアーを心がけている。

